



新型コロナ感染予防対策助成金と住宅公社境川団地自治会

去年の暮、知人から私の携帯に一通のメールが届きました。それは東京都生活文化局のホームページで「新型コロナウイルス感染拡大防止普及啓発事業助成金」の情報でした。内容は都内に所在する単一の町内会・自治会に対して30万円の助成金を支給するという嬉しい知らせでした。

年明け早々、生活文化局に助成金申請書一式を郵送し、1月16日には交付決定通知書が送られてきました。さっそく準備にとりかかりました。助成金交付条件には指定された3つの配布物があり、全てを配布しないと最終的に交付には至りません。その一つがチラシです。生活文化局ホームページからダウンロードした原稿に自治会からの啓発コメントを入れ印刷屋に依頼し、1月22日にはチラシが届きました。



(上写真は配布した3点)

次に啓発グッズの購入です。自治会では去年、盆踊り大会などの活動が自粛のため開催できなかったことから、これらの予算を感染予防対策に振り向けることにしました。それにより7月に不織布マスク5枚セットを11月には泡の出るタイプの容器入りキレイキレイを全会員に配布しました。今回で3回目となる感染防止対策の啓発グッズは、前回配ったキレイキレイの詰め替え用としました。予算的にもチラシ代金と啓発グッズ購入費を合計してもほぼ30万円内に収まると見積りました。

まずは前回購入した大手ドラッグストアチェーン店舗に赴き店頭にある商品と価格を確認した後、すべて同一種類で1050個を注文しました。ところが店長からの回答は思わしくありませんでした。

それは、「数が多いので集められるかどうか不安である」「店頭価格(特価)での販売は難しく場合によっては定価販売になる」また「支店では決められないので会社上層部の決済になる」という事でした。いずれの回答も後日連絡を頂くことになりました。

半ばあきらめかけ、他の大手ドラッグストア店舗に行き販売員に相談したところ、こちらでも50個~60個が限度との厳しい回答でした。さらにインターネットでの購入も考えましたが、期限内に数量の確保ができるか？また交付条件である領収書の但し書き記入など細かな点で対応してくれるかどうかの不安がよぎり、購入先の選択肢から外しました。

1月20日、店長から電話があり各支店から集め1050個揃ったが、価格は定価販売であるとの事。そこで、キレイキレイは香り別に3種類あるので、混合することで値下げを打診したところ、希望金額に近い回答を得ました。品薄状態の中での啓発グッズ購入がこれほど大変とは思いませんでした。

そして啓発シールも届き配布物が全て揃いました。1月23日団地役員が集まり、キレイキレイ引換券の封筒入れ作業を実施。30日は封筒を会員宅へ投函。



2月11日と14日の午前9時から午後4時までの2日間で約320名に配布しました。当初予算から若干オーバーしましたが、日頃お会いする事が少ない会員の方々と出会う事ができ、また多くの方々からお礼の言葉を頂き、コロナ禍のなかで会員との思わぬ交流も得ました。その後も3月30日まで継続して自治会事務所でお渡ししています。

新型コロナウイルスが一日も早く終息するのを願ってやみません。
編集長 竹島 正

疫病退散！今年もやったよ「どんど焼き」

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、町内会・自治会の多くの行事が中止となる中、鶴川では真光寺と野津田町内会でそれぞれ恒例の「どんど焼き」が行われました。真光寺町内会の取組みを紹介します。



1月11日午後4時30分、真光寺スポーツ広場に立てられた「塔」にたいまつがはいらしました。参加者は約300人（それでも例年の4分の1位）消防団、担当役員らが見守る中、高く燃えあがる炎に無病息災の一年を願いました。今年はマスクの着用を徹底し、受付で検温、体調の確認をして、密にならないように配慮しながらの実施。恒例の「だんご」の販売や豚汁のふるまいもなく、かわりにさつまいもを1本ずつ配って焼きたい人は焼き、それぞれ持ち帰ってもらうようにしました。夜8時に終了。

どんど焼き（左義長）は平安時代から小正月の行事として行われてきたということです。

真光寺町内会の仲村会長によれば、武蔵野国南部に属する町田市域では、数本の竹で柱を組み、その中に落ち葉、そだ、竹などを入れ、さらに正月飾りや福ダルマなども入れて、周囲を荒縄で縛り「塔」を完成させ、1月14日の夜にその塔を燃やして祭りを行いました。この火で団子を焼いて食べれば、その年は病気にならない（疫病にかからない）、書初めを燃やすと、字がうまくなる（勉強ができるようになる）という火祭りです。



今年は新型コロナウイルスの流行で実施するところが少なくなったようです。

かつては各地域で行われていましたが、今後も都市化の進展とともに、どんど焼きを実施できるところは少なくなることが危惧されます。時代の変化でやむを得ないとは言え、こうした伝統行事が絶えてしまうことの無いよう継承に努めていきたいと強く願っているとのことでした。

編集委員 北川 もと

「町田薬師池公園四季彩の杜西園」が開園1周年を迎えます

2020年4月にオープンした町田薬師池公園四季彩の杜西園は、密を避けながら非日常が楽しめる場所として、人気があります。2020年10月にグッドデザイン賞を受賞した西園は訪れるだけでワクワクします。自然豊かな園内を散策したり、直売所で町田産の野菜を買ったり、カフェ・レストランで名物の薬師ソフトクリームを食べたり、色んな楽しみ方が出来る公園です。ぜひ一度訪れてみてください。

町田市役所 観光まちづくり課

